

# 図書館だより

## 11月の主な受け入れ図書

<p>①小倉一哉著『エンドレス・ワーカース』日本経済新聞出版社(xii+261頁,B6判) 働きすぎは、日本人の社会的性格なのであろうか。本書は、当機構が行ったアンケート調査や官庁統計を基に、過労死・過労自殺等の日本の厳しい労働時間の状況を詳細に提示している。一方、日本人は労働自体に意義を見出していることにも言及、労働時間に対する様々なニーズを受け入れる社会の寛容性を説いている。</p>	<p>④大橋範雄著『派遣労働と人間の尊厳』法律文化社(ix+208頁,A5判) 派遣労働者数は増加の一途を辿り、2007年には255万人に達し、全労働者の中の一大勢力と化した。著者は、派遣労働者の使用者責任、派遣労働者と派遣先の正規従業員との均等待遇問題、労働組合の役割等について、ドイツの派遣法にも言及しつつ分析している。派遣労働者の権利を中心においた研究書となっている。</p>
<p>②下崎千代子他編著『少子化時代の多様で柔軟な働き方の創出』学文社(xi+218頁,A5判) テレワークにも呆れ盛衰があり、再びブームを迎えている現在、多様な働き方、豊かな生活のために大いなる期待がかけられている。本書は、ワークライフバランスの実現に向けた関西テレワーク研究会の10年以上に渡る地道な研究活動の成果である。テレワークは、少子高齢社会への対応にも有効な手段となるであろう。</p>	<p>⑤上田眞士著『現代イギリス労使関係の変容と展開』ミネルヴァ書房(xi+286頁,A5判) 組織率低下と労使関係の個別化は、組合活動のあり方を問い直している。重厚長大産業を中心に運営されてきた労働組合は、連帯を基礎とした伝統的な集合主義から、人的資源管理の個別化の下、いかなる方向に進もうとしているのか。労組の役割と可能性を信する著者は、英国の現状を詳述しその方向性を模索している。</p>
<p>③石田成則著『老後所得保障の経済分析』東洋経済新報社(x+272頁,A5判) 労働市場からの完全引退後の所得をいかに確保するかは、団塊世代の先頭集団が60歳に達した現在、現代日本の大きな課題となっている。公的年金がその基本となるが、制度の将来性を勘案すると、私的年金等の自助努力で対応せざるを得ない部分も大きい。本書は、公私の年金システムを経済理論に基づき考察している。</p>	<p>⑥島田晴雄他著『雇用改革』東洋経済新報社(194頁,B6判) 労働力人口の減少に直面する日本は、経済力を維持するため労働生産性の向上を必要としている。著者は「雇用の質」を改善することにより、同じ労働力でも高い生産性が達成可能と説く。建設、流通、農業等の分野で様々なアイデアが披露されているが、この簡潔な提言を実現していくための作業が必要とされるであろう。</p>
<p>⑦湯浅誠著『貧困襲来』山吹書店(201頁,B6判) ⑧橋本俊昭編『経済から見たリスク』岩波書店(x+178頁,A5判) ⑨若林幸男著『三井物産人事政策史』ミネルヴァ書房(vi+248+7頁,A5判) ⑩安立眞理子他編著『フェミニスト・ポリティクスの新展開』明石書店(460頁,B6判) ⑪上西充子編著『大学のキャリア支援』経営書院(234頁,A5判)</p>	<p>⑫浜林正夫著『物語 労働者階級の誕生』学習の友社(191頁,B6判) ⑬佐久間信夫編著『コーポレート・ガバナンスの国際比較』税務経理協会(4+4+240頁,A5判) ⑭木下武男著『格差社会にいどむユニオン』花伝社(359頁,B6判) ⑮朝日新聞「分裂につぼみ」取材班著『分裂につぼみ』朝日新聞社(279頁,B6判) ⑯日本労働弁護団50年史刊行委員会編『日本労働弁護団の50年』日本労働弁護団(全4巻,B5判)</p>

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

例年どおり、当館が所蔵する和洋雑誌の製本作業が始まった。すべての雑誌ではなく、研究論文が掲載される可能性が高い雑誌が中心であるが、洋雑誌は、収集している雑誌のほとんどを紹介している。前年度もご紹介したが、製本対象雑誌をもちえなくとりそろえるのも大変な作業である。発行されていても納品されなかった雑誌があったり、遺憾ながら不明になる雑誌もある。発行機関に再寄贈をお願いしたり、研究員等に返却督促をする。新年には配架され、利用可能な状態になるが、緊急に目を通したい雑誌があったら、お気兼ねなくご連絡ください。取り寄せ、複写サービスとして対処させていただきます。製本しない雑誌は、これも例年どおり不用処理手続に入る。これは、配架のスペースがないという理由で、できるだけ資料を再利用し、次のH/P等に買取・交換の公告をだし、さらに関係機関にも案内し希望を聴取、引き取り手のない資料だけ、廃棄処分する手続をとっている。このように外と少なく、学術情報の利用促進をはかるメールマガジンであるACADEMIC RESOURCE GUIDEの「注目したい取り組み」として評価していただいた。買取・交換のH/P等は来年1月中旬に当機構の公告に掲載予定である。不用リストをご覧いただき、買取等の申込をしていただければ幸いです。

### 今月の耳より情報

11月29日、30日に開催された専門図書館協議会の秋季セミナー「アピールするライブラリー」に、広報戦略を考ふる一に参加した。何回か本欄でつぶやいたが、当館は、日本有数の労働関係資料を所蔵している専門図書館であるが、立地条件の制約もあり、所蔵資料のわりに外部来館者の人数が少ないのではないかと悩んでいた。当館へのアクセスが多量に不便であったとしても、来館していただけるためには、何かできる広報をしたらいいか迷っていた。からである。本セミナーでは、国立国会図書館のカレント・アウエア・ポータル事業、トヨタ自動車博物館の図書活動、図書館流通センターのプロジェクトの紹介など、それぞれに目新しく、参考になる情報も多々あったが、最も参考になったのが、巻頭講演のお茶の水女子大学附属図書館の茂出木理子講師の「一人を惹きつける広報戦略」だった。広告が「Buy me」であるのに対し、広報は「Love me」であるというのにも納得できた。広報には物語が必要であり、来館者個人々人のための物語を提示し、他人を巻き込み、口コミしたくなるようにさせる。広報のものである「外向きのマネジメント」の最前線であること、このいうのもそういうことかと感心させられた。セミナー参加者間のグループ討議でも、来館者アンケートの回収の際に、回答してくださった方に直接ご意見をうかがっている、というような経験も報告された。完璧を期さずとも、ともかく一歩踏み出すべきという発言は最も胸に染み込んだ。これらの報告や経験を参考に、当館の広報戦略を中である。

### 図書館長のつぶやき

11月29日、30日に開催された専門図書館協議会の秋季セミナー「アピールするライブラリー」に、広報戦略を考ふる一に参加した。何回か本欄でつぶやいたが、当館は、日本有数の労働関係資料を所蔵している専門図書館であるが、立地条件の制約もあり、所蔵資料のわりに外部来館者の人数が少ないのではないかと悩んでいた。当館へのアクセスが多量に不便であったとしても、来館していただけるためには、何かできる広報をしたらいいか迷っていた。からである。本セミナーでは、国立国会図書館のカレント・アウエア・ポータル事業、トヨタ自動車博物館の図書活動、図書館流通センターのプロジェクトの紹介など、それぞれに目新しく、参考になる情報も多々あったが、最も参考になったのが、巻頭講演のお茶の水女子大学附属図書館の茂出木理子講師の「一人を惹きつける広報戦略」だった。広告が「Buy me」であるのに対し、広報は「Love me」であるというのにも納得できた。広報には物語が必要であり、来館者個人々人のための物語を提示し、他人を巻き込み、口コミしたくなるようにさせる。広報のものである「外向きのマネジメント」の最前線であること、このいうのもそういうことかと感心させられた。セミナー参加者間のグループ討議でも、来館者アンケートの回収の際に、回答してくださった方に直接ご意見をうかがっている、というような経験も報告された。完璧を期さずとも、ともかく一歩踏み出すべきという発言は最も胸に染み込んだ。これらの報告や経験を参考に、当館の広報戦略を中である。



### ご案内 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書97,000冊、洋書25,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(490種)、洋雑誌(220種)、紀要(500種)、組合機関誌・紙についても、受け入れています。特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00  
休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他  
電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659  
利用資格：どなたでも利用できます  
貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです  
※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています